

自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(家庭) /
西川 和孝

■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

I. 学長の定める重点目標

I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

1. 目標・計画

本学は教育大学であり、高度な教職の専門性と教育実践力を身に付けた教員養成を目指すため、以下の授業実践を行う。

- ①授業内容 現在、教員養成モデルコアカリキュラムにおける教科書を執筆中である。これにより、教員養成に必要なコアとなる授業内容を再構築する。
- ②授業方法 上記①の授業内容から授業を行う。講義科目は、パソコン等の情報機器を用いて行い、実験・実習科目は、教員養成にふさわしい内容となるよう授業を行う。
- ③成績評価 授業に関するテストや授業に対する取り組み等によって、成績を評価する。

2. 点検・評価

最終報告

- ①授業内容 現在、教員養成モデルコアカリキュラムにおける教科書を執筆した。これにより、教員養成に必要なコアとなる授業内容を再構築を実施した。
- ②授業方法 上記①の授業内容から授業を行った。講義科目は、パソコン等の情報機器を用いて行い、実験・実習科目は、教員養成にふさわしい内容となるよう授業を行った。
- ③成績評価 授業に関するテストや授業に対する取り組み等によって、成績を評価した。

Ⅱ. 分野別

Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

1. 目標・計画

- ①「自立と共生」という基本理念と「実践的・体験的授業」という教育の基本方針を堅持し、学生の指導にあたる。
- ②学部1年生から担当する授業科目等を通して教職への動機付けを行う。
- ③担当する講義、実験科目等の授業評価を実施する。その際、シラバスに添った成績評価を実施し、第3者にも説明できるような評価を行う。
- ④実験、実習科目は安全が最も重要であるため、事故のないよう十分留意する。
- ⑤卒論、修論のテーマや指導に当たっては、学生の希望を優先する。

2. 点検・評価

最終報告

- ①「自立と共生」という基本理念と「実践的・体験的授業」という教育の基本方針を堅持し、学生の指導にあたった。
- ②学部1年生から担当する授業科目等を通して教職への動機付けを行った。
- ③担当する講義、実験科目等の授業評価を実施している。その際、シラバスに添った成績評価を実施し、第3者にも説明できるような評価を行った。
- ④実験、実習科目は安全が最も重要であるため、事故のないよう十分留意して実施した。
- ⑤卒論、修論のテーマや指導に当たっては、学生の希望を優先して実施した。

Ⅱ－2. 研究

1. 目標・計画

- ①基礎的な研究だけでなく、教育実践に役立つ研究を行う。
- ②民間や法人からの外部資金を獲得するため積極的に応募する。
- ③科学研究費補助金に申請を行う。
- ④学術論文(少なくとも1報)を投稿する。
- ⑤研究成果を学会にて発表する。

2. 点検・評価

最終報告

- ①基礎的な研究だけでなく、教育実践に役立つ研究を行った。→授業実践に役立つ論文を投稿した。
- ②民間や法人からの外部資金を獲得するため積極的に応募する。→適当な民間等の研究助成がなかったため、応募しなかった。
- ③科学研究費補助金に申請を行った。
- ④学術論文を5報(査読有4報)投稿し、すべて受理された。
- ⑤研究成果を学会(東京、香川)にて発表した。

Ⅱ－3. 大学運営

1. 目標・計画

- ①学内の各種委員会に出席し、職務を遂行する(学部教務委員、安全管理委員、知的財産室会議委員会等)。加えて、病気で休まれる先生の代理出席を積極的に行う。
- ②コース会議、部会議を通じて問題点や提案をコース長、部長に行う。

2. 点検・評価

最終報告

- ①学内の各種委員会に出席し、職務を遂行した(学部教務委員、実地教育専門部会委員、大学連携e-Learning専門部会委員、安全管理委員、知的財産室会議委員会等)。加えて、病気で休まれる先生の代理出席を積極的に行った。
- ②コース会議、部会議を通じて問題点や提案をコース長、部長に行った。

Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

1. 目標・計画

- ①附属小学校教員、附属中学校教員と連携・協力する。
- ②研修会等にて、大学院への入学を呼びかける。
- ③外国人研究者、留学生の希望者があれば受け入れる。
- ④松茂町と本学との協定に基づく、大学連携図書館講座を引き受ける。

2. 点検・評価

最終報告

- ①附属小学校教員、附属中学校教員と連携・協力した。
- ②他大学(神戸女子大学)にて、大学院への入学を呼びかけた。
- ③外国人研究者、留学生の希望者があれば受け入れる。→本年度は希望者なし。
- ④松茂町と本学との協定に基づく、大学連携図書館講座「食と健康」の講師を引き受け、8月3日(土)に実施した。

Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

最終報告

本学の「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」事業の教科内容学協議会の委員として、発表及び教科書作成等に携わった。

加えて、教科内容学にかかる発表を年5回実施した。(3月25日(火)に文部科学省にて発表した。)

本学の知的財産室委員として、四国国立共同機構等に9年間携わった。

松茂町と本学との協定に基づく、大学連携図書館講座「食と健康」の講師を担当した。

教員インターンシップ(教育実習)の訪問指導を行った。

大学院生獲得に係る他大学に訪問し、本学大学院への入学を呼びかけた。